

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮東小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語「言葉の特徴や使いに関する事項」 算数「数と計算」 ＜指導上の課題＞ 個人差が大きく、また基礎学力の定着が十分ではない。	⇒ 漢字ドリルや計算ドリル、プリント、タブレットのドリルパーク等を活用して週1回業前や授業の最初に反復学習を行う。授業の最初に前時の振り返り等を行う。【週1回・授業時】 ⇒ 家庭と連携して、学習習慣と生活習慣の形成・見直しを目的とするマミヤンカードの取組を実施する。【学期に2～3回、1週間】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語「書くこと」 算数「数と計算」「変化と関係」 ＜指導上の課題＞ 「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点に基づく授業改善に取り組中である。	⇒ 「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点に基づく授業改善を進め、主体的な学びを充実させる。ICTを効果的に活用し、児童が「できた」「わかった」と実感できる学びを推進する。【毎時間】 ⇒ 指導訪問の他に授業研究に全職員が参加する。【年に3回】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	児童生徒の 学力の向上
思考・判断・表現	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、昨年同様に「我が国の言語文化に関する事項」と「言葉の特徴や使いに関する事項」に課題がみられる。特に「漢字を文の中で正しく使う」の問題の正答率が低かった。漢字など基礎・基本の定着に引き続き取り組んでいく。算数では、「台形の意味や性質について理解しているかどうか」「平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうか」などの正答率が低かった。図形分野に課題があると考える。理科では、「身の周りの金属について電気を通すか磁石に引き付けられるか」の正答率が特に低かった。既習事項を使って学習を進めていくようにしたい。
思考・判断・表現	国語では、「書くこと」の領域に課題がみられた。「自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうか」の正答率が低い。「読むこと」の正答率は高かった。算数では、「10%増量の意味を解釈し何倍になっているかを表すことができるかどうか」の正答率が低く、無回答率も高かった。また測定分野の正答率が低く、算数的活動の充実を図りたい。理科では、「結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうか」の正答率が低くかったので、結果から考察できるように日頃の授業を組み立てていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	毎週月曜日の業前時間に漢字ドリルや計算ドリル、プリント、タブレットのドリルパーク等を活用して、反復学習を行うことができた。 家庭と連携して、学習習慣と生活習慣の形成・見直しを目的とするマミヤンカードの取組を実施することができた。今年度は読書の記録をデータ化し児童の励みにつなげるようにした。
思考・判断・表現	B	1学期に指導訪問を実施し、「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点に基づく授業改善を進め、主体的な学びを充実させるきっかけの授業改善研修となった。学びの指標における授業でのICTの活用も昨年度の同時期に比べ進んでいる。全職員が参加する授業研究は今後3回実施する予定である。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)